

先日、学部時代の後輩、上橋望海さんとツツカインをさせてくださったきました。

後輩の彼女の活躍は、勉強と未来の不安に行き詰まっていた、意気地のない、努力の足りない私に大きな勇気をくれました。

また彼女を見ていくと、まるで過去の自分を見ていくような感じがした。

私も学部時代は、情熱と大きな夢を持ち、失敗を恐れずに目標に向かって突き進んでいました。

現在の私は、様々な原因から内向的になり、笑顔すら忘れていた

すら机に向き合っている効率の悪い方法で学問に向き合っている効果を得られない自分にまた落胆するという悪循環を繰り返してしまいました。望海の現在と私の過去を重ね、彼女から、そして過去の自分から



ため、前を向って頑張るんだよね」と励まされたことがありました。

後輩という存在は、先輩が予想している以上に飛躍し、そしてその活躍のちに先輩の大きな励ましのなごみを感じました。

今週の水曜日わたしは福建省を訪れます。

まず最初は、国際大学時代に一緒に大連に留学してお世話になった中尾真央先輩に会います。

そして次に、鹿児島大学でお世話になり、重慶にいらしている川野先輩に会いに行きます。

二人とも日本語の先生として活躍し始めて三年が経ちます。

11の旅に出るよじりになりましたよかけま、11の復旦での生活にあらま。

毎日笑顔のなごり日々を過ごしていた私は、修士一年生の頃の明るく元気な自分だったので、「11と同級生に心配をかけるほどじゃなかった。

修士論文と将来への不安、進歩の見えない自分に落胆し、何日も外に出ない日々が続いていました。去年卒業してしまっただ友達の存在がどれだけ大きかったのかと実感しました。

そんな自分と向き合おうとすべへ、11の11ですが、中国で目標を見失いかけている私に、なにかヒントをくれたものではないかと思ひ、思ひ切った11の11に現地を離れてしまひ先輩一人に会ひたい11の11になったのよ。

二人の先輩は、鹿児島国際大学、鹿児島大学の先輩で、私が過去にどれほどお世話になったのかわかりません。11の11私を叱って下さる先輩は、本当に、私のことを思い、まっすべ前を見てほしいから厳しく言葉をくれたものだよと思ひます。

上海から飛行機で福建省泉州市の真央さんのもとへ。そのあとアモイを観光して、飛行機で重慶へ。帰りは成都からの列車で一泊かけて上海へ帰る予定でした。

この100日間の先輩を訪ねる旅がどんなものになるのか、またどんな苦難が待ち受けているのか分からませんが、上海に戻ってきましたら、少しだけでも笑顔になれたらいいなと思います。

そしてまたひとつ、先輩方の活躍する場中から学び、様々な想い、成長する日々が待っていたと思います。

復旧に来て、何度目かの切ない思いを噛み締めたこの一学期でしたが、唯一変わらないものは薄れかけていた私の夢であり、母の願いでもあります。

世界中の人たちが、いまは欲張らずにまず周りの苦しんでいる人たちが、一人でも幸せに、笑顔になれるように。私は努力を止めないでしょう。

前に進めない、苦しい時も、やはり、努力する足を止めてはいけない。どんなに遅くてもどこから、走り続ける。

結果ではなく、足を止めないことに大きな意義があるから。それは先週参加した学内のノーキロクランソンの際に自分言聞かせた言葉でもあつた。

後輩からの励ましと先輩に会ったこの1ヶ月の期待。甘えなげうの私ほども誰かに頼っていてほしい気がしてなりましたが、旅に出るのほほかの誰よりも自分自身です。



自分の姿は自分で見ないほうがいい。

こちら努力して、前に進んでいくなのがわかる。

誰も褒めてくれる人はいない。

でもだからいざ、自分の本当の心の声、耳を傾けてあげたい。そして自分を励ましたい。

ええ、わたしは足を止めないあなたをちゃんと思っています。